

「気付き 悟りを深める信者に」

神 示

今日 社会に欠けるものは 人たる人の「心の真理」

知識を学び 努力を信じて

どれほど多くの人が 人生を枯らし 夢持てずにいるか

信者に申す

「教え」を学び

「真理」を通して 社会を見詰める思いを強く持つ

この思いが深まるほどに

心の迷いは治まり 「正道」を歩む思いが強くなる

知識に「心」振り回されず 的を射た努力ができる

「教え」の基に「心の真理」がある

「教え」に気付きを得て

人間は 社会を正しく得心する

今日 人々は「心の真理」を欠き 真理なき思いを語り合う

よって 結論が見えない

人生の基本は

「教え」に気付きを得て

「教え」を人生の支えに生きること 見えてくる

「人生」のあるべき道に悟りを深めて

人間は 心正しく社会に奉仕する思いが持てる

有限の時を「生きる」人生の基本に気付いて

「真理」に生きる人を目指すべし

「真理」求めて生きる人は皆

神の手の中「心」磨かれ 「実体」を高めてゆける

我が家の「心の道」は 太くつながり

家族一人一人の人生も 悟りを深めて行く

常に変化し続けるのが、時代の流れです。そうした変化に乗って、悔いのない人生を歩みきるため、神の教えを学び、気付き、悟りを深められる人になってほしいと、神は呼び掛けられています。変化の激しい時代の流れに乗るには、教えを身に付ける以外ないのです。

今の社会に欠けているのは、道徳などよりもっと根本になくてはならない、人たる人の心です。それは、運命実体で回るこの世の仕組みを知って、運命に重なる生き方をしようとする姿勢です。

長い歴史を重ねる中で、いかに多くの知識を得ても、またいかに努力を積み重ねても、人の力には限界があります。運命にないものは、かないません。

ですから、教えを学び、物事の道理を踏まえた考え方をするので。すると、社会を見詰めたときも、虚実の見極めができ、是非の判断が的確にできます。社会の動きに振り回されず、心の迷いはありません。そして、正しい道、正道を歩む思いが強くなります。正道とは、自身

の分、器に合わせて、世に役立つ生き方をすることです。

正道を歩む人は、知識、情報に振り回されず、自分の運命に見合う、的を射た努力ができます。教えから気付きが深まると、社会の動きも正しく理解し、不満を漏らしたり、批判したりせず、現実を受け止め、調和していけるのです。

現代の人々は、形に目が奪われ、心、内面を見ず、自らの思いを知識に乗せて自己正当化しがちです。そこに、正しい答えを見いだせず、現実に流されます。人が生きる上で一番大切な基本が、教えを学ぶ中から見えてきます。それは、与えられた潜在能力、持ち味を発揮し、社会に奉仕していく姿勢です。そこに、生きがいのある人生が歩めるのです。

限りある一生を送る上で欠かせない基本を知り、教えが守れる自分を目指しましょう。そこに、実体が修正され、運命の力が引き出されます。そして、社会に貢献し、より良いものを残して、心の道が太くつながっていくのです。

「気付き 悟りを深める信者に」

神 示

——「運命」に重なる人生を

神に求めて「教え」を学ぶ——

心正しい祈願の姿と申す

心正しい「信者の道」を知っていようか

——「教え」を学び

祈願で「真実の愛」に生きる人を目指す——

自然と 気持ちは安定し

「教え」が多くの気付きを引き出す

ますます人との出会いが広がり 深まり

多くの運命が重なり 補う環境が生まれる

「運命」が重なり 支え合う 出会いの基は

「家庭」にあると悟るべし

信者に申す

「教え」を学び

「真理」で関わる家庭を

家族で築く努力を重ねる

この努力が 人の心に「夢」を持たせ

「心の道」を太くつなぐ愛を育む

社会が変化し 時代がどれほど流れても

「心の道」に人の魂は生き続ける

愛が育つ家庭に生きる人の心は

家族に「真実の愛」を与え

「実体」を高めてゆく

社会の流れに心のまれ 「夢」枯らさぬように

「真理」に生きる悟りが必要

神のお言葉、神示は、今この時に必要なことを説かれる教えです。ですから、神示を通して自分の感じ方の修正点に気付き、それを人格として身に付けた自分へと高めていく努力が大切です。

神から与えられた運命に重なる人生を歩むため、学んだ教えに沿って生きられるように求めるのが、正しい祈願の在り方です。自分の分、器に見合う、運命の力を最大限に発揮した、自分らしい人生を求めて、神に願うのです。

心正しい信者の道とは、「学んで、祈願、愛ある心」です。つまり、教えを学び、祈願をもって実践に移し、真実の愛に生きる自分を目指すのです。愛が深まれば、常にお互いさまの感覚でいられるでしょう。自分が大切なら、それは相手も同じであり、自己愛と他者愛のバランスが重要です。自分と同様に相手を尊重すれば、和を欠くことはありません。

そうした努力の中で、自然と心は安定し、教えを通してさらに多くの気付きが得られます。損得や勝ち負けにこだわらぬような感覚は消え、心が穏やかでいられます。さまざまな出会いを生かし、多くの人々の良さが重なり合う実感が得られて、生きる今が楽しくなります。

人が他者との調和の心を育むのは、家庭です。ですから、家族で教えを学び、愛の心で関わる家庭を築く努力をします。

家族との正しい関わりから、自分自身も多くの人々の役に立とうとする夢がますます膨らんでいきます。そして、自らの良さを存分に生かして、我が家の心の道に最良のものを残していきます。

心の道は、親から子へ、子から孫へ、その家系に連綿とつながっていきます。世代を超えて、人の魂は心の道に生き続けます。

人生の基盤となる家庭が、愛の育つ環境となれば、家族一人一人がごく自然と愛深い人となり、その家の実体は高まります。世の流れにのまれることもなく、家族の皆が夢を持ち、公共性の高い人となって、心の道が栄えていくのです。